

事例報告 1

戸田小柳遺跡から出土した鏡と水辺の遺跡から出土した鏡について

公益財団法人かながわ考古学財団 戸羽康一

はじめに

趣旨説明で古墳時代のムラの鏡が出土するのは、水辺と集落の大きく二種類に分けられるという説明がありました。本稿では、水辺の遺跡において鏡が出土した事例を見ていきます。遺跡としては、厚木市戸田小柳遺跡、相模原市勝坂有鹿谷祭祀遺跡、小田原市高田南原遺跡の3遺跡を取り上げます。

1. 戸田小柳遺跡

戸田小柳遺跡は厚木市戸田に所在します。神奈川県のはほぼ中央、相模川中流域の右岸側に位置しています。遺跡の標高は13.5～14.1 mです。弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の遺構と遺物が確認されています。発見された主な遺構は溝または流路です。

鏡はP2地区H20号流路から出土しました〔図1〕。遺構は自然に形成された流路で、弥生時代後期から古墳時代後期の土器とともに出土しています。遺物の時期から、H20号流路が埋没した時期は古墳時代後期と考えられます。鏡は遺構覆土層から出土しており、周辺には土器の破片が散見される状況でした〔図2〕。

鏡は全体の3分の1程度が遺存しており、鈕は欠損しています。文様構成から双頭龍文鏡と考えられます。また、この鏡には銘文「位至」が確認されています〔図3・4〕。このことから、欠損部分に「三公」があったものと推測されます。双頭龍文鏡は中国において後

漢から魏晋の時代（2～3世紀）につくられた鏡です。鏡が作られた年代と出土した遺構の埋没時期鏡に時期差がありますが、最終的に鏡が廃棄された時代は古墳時代後期と考えられます。

この鏡を詳細に観察したところ、未貫通の穴をあけようとした痕跡、破断面には面取りの痕跡や破断面に沿う線状痕、打撃痕が見られることから、破鏡の可能性がわかりました。破鏡とは弥生時代に割れた鏡を加工して使用したものです。主に関西より西の地域で多くの出土例があり、関西より東の地域では出土例そのものが希少です。また、鏡面には不定方向の傷が確認されています。これらの傷について、マイクロスコープを使用してより詳細に観察したところ、深くはっきりとしたものと浅くうっすらとしたものがあることがわかりました〔図4・5〕。特に深い傷については、傷の断面が非常に細く深いことから、金属器など鋭い利器を用いて人の手によって付けられたことが想定されます。出土状況と鏡の状態から、鏡面に傷を付けて流路に遺棄したという行為が想像されます。



図1 戸田小柳遺跡 H20号流路 遺物出土状況



図2 戸田小柳遺跡 H20号流路 双頭龍文鏡出土状況



図3 戸田小柳遺跡出土双頭龍文鏡（左：鏡面 右：背面）



図4 鏡面・鏡背面の部分拡大写真

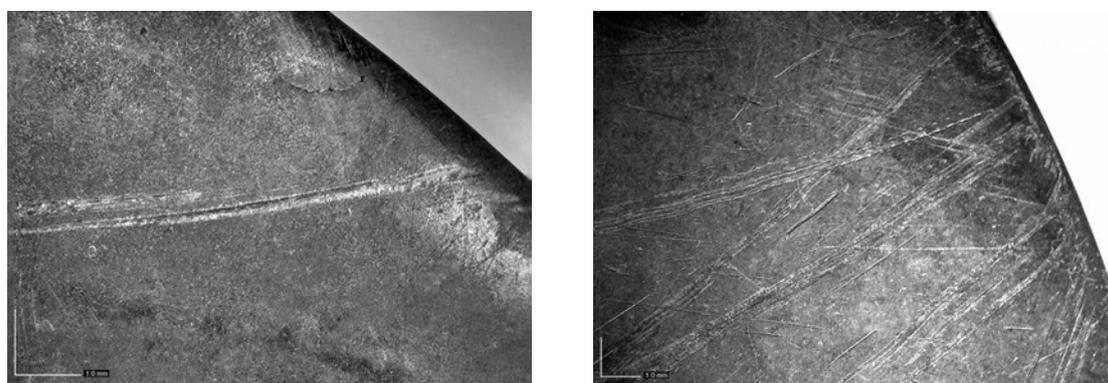


図5 鏡面傷の拡大写真

2. 勝坂有鹿谷祭祀遺跡

相模原市磯部字勝坂に所在する遺跡で、国指定史跡の勝坂遺跡の西側に段丘崖があり、一段下がった段丘面が鳩川によって形成される小さな谷の中に位置しています。小さな谷は有鹿谷（あるかやと）と呼ばれています。昭和30年度ごろに行われた水田に関する土工事を行っている際に発見されました。後の昭和47年に大場盤雄氏らによる調査、昭和52年に神奈川県史編さんに伴って赤星直忠氏らによる調査が行われています。近年では相模原市市史統編編さん事業を契機として平成17年に詳細な資料調査が行われ、報告書が刊行されています。

遺跡の近くには海老名市河原口に所在する有鹿神社との関連がある石の小祠が祀られており、その小祠付近から豊富な湧水が鳩川に流れ込み、最終的に相模川に合流します。鳩川はそれより南の地域で開かれた水田地帯への水の供給源として古来より重要視されていたようです。現在においても毎年4月には海老名の有鹿神社関係者によって「有鹿さまの水もらい」と呼ばれる神事が行われています。

遺物は谷の南寄りの箇所を鏡を含めた遺物が採取されました。記録によれば頭大の河原石が直径5m程度丸く並べられた箇所があり、その内側から多数の石製祭具が、付近からは土器が出土し、焚火跡もあったとされています。

出土遺物は銅鏡7点（珠文鏡5・櫛歯文鏡1・変形六獣鏡1）、石製祭具283点（子持ち勾玉1・管玉1・白玉112・勾玉2・勾玉模造品18・刀子形模造品3・鎌形模造品2・剣形模造品76・鏡形模造品2・有孔円板65・不明1）、土師器6点（坏4・鉢1・埴1）、その他（玉石8・不明2）の合計306点となります〔図8・9〕。鏡は大きさ、作り方、文様などからすべて日本で铸造されたものと推定されています。土師器は5世紀中葉～7世紀前半までのものが出土しています。

石製祭具については形態と製作技法から4世紀末葉～5世紀初頭（第1期）、5世紀初頭～中葉（第2期）、5世紀中葉～5世紀後葉（第3期）、5世紀後葉～5世紀末葉（第4期）、5世紀末葉から6世紀初頭（第5期）に区分されます。土器と石製祭具ではその帰属時期に年代差が生じていますが、この遺跡が古墳時代前



図6 勝坂有鹿谷祭祀遺跡 近景



図7 勝坂有鹿谷にある有鹿神社の祠

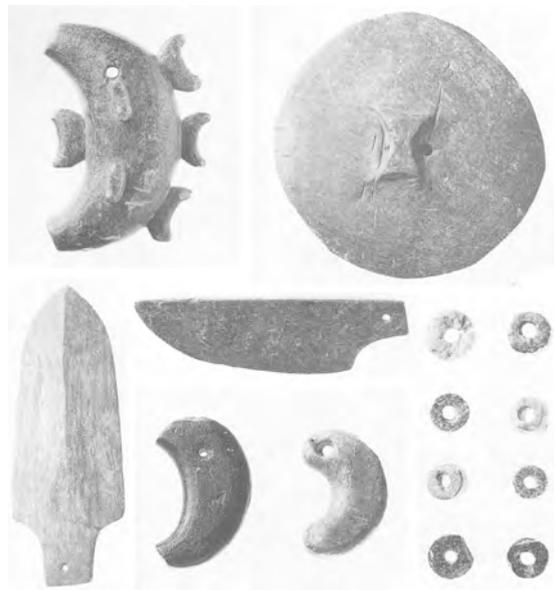


図8 勝坂有鹿谷祭祀遺跡出土石製祭具

期末～後期にかけて存続していたと考えられています。

銅鏡・石製祭具といった遺物およびこれら遺物が出土した遺構からこれらを用いた祭祀が行われていたことは明らかです。水に関連する神事が現在も行われているように、この地域における水と有鹿谷の豊富な湧水によってもたらされる作物の豊穰を願ったことは想像に難くありません。



図9 勝坂有鹿谷戸祭祀遺跡出土銅鏡

3. 高田南原遺跡（第Ⅱ地点）

小田原市高田字南原に所在する遺跡で、立地は酒匂川下流域に広がる足柄平野の低地部にあたり、遺跡の標高は約 12.5 m です。弥生時代後期から古墳時代後期の遺跡で、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期の溝を中心に竪穴状遺構や土坑・杭列・矢板列が見つっています。遺物は鍬・田下駄などの木製品が出土しており、調査では明確な痕跡が確認されていないものの、この遺跡が水田などの生産域であった可能性も考えられます。

鏡が出土したのは古墳時代の遺物包含層からです。遺構に伴って出土していませんが、第2号溝のすぐ東側から出土しているため、溝に廃棄された可能性が指摘されています [図 10・11]。

鏡は文様構成から珠文鏡で、製作された年代は古墳時代前期と考えられています。この鏡が古墳時代後期に埋没したとされる第2号溝に廃棄されたとすると、戸田小柳遺跡と同様に鏡が製作された年代と廃棄された年代に時期差があることとなります。鏡の遺存状態は完形で、鈕には樹皮による紐が巻き付けられています [図 12]。

先に言及した第2号溝は古墳時代後期の遺構であり、多数の土師器・須恵器とともに滑石製の勾玉および白玉、鉄製刀子が出土しています [図 13]。報告書では第2号溝から出土している勾玉・白玉、鉄製刀子と鏡の存在から、これらを用いた祭祀が行われていた可能性が指摘されています。本遺跡がどこかにある集落の生産域であったとすれば、豊穡を願う祭祀を行っていたことが想像されます。

なお、本遺跡の周辺には小田原市永塚下り畑遺跡、千代遺跡、高田遺跡が存在しています。これらの遺



図 10 高田南原遺跡第Ⅱ地点 第Ⅱ区完掘状況



図 11 高田南原遺跡第Ⅱ地点 珠文鏡出土状況



図 12 高田南原遺跡第Ⅱ地点出土珠文鏡（左：背面 右：鈕に巻かれた樹皮）



図 13 高田南原遺跡第Ⅱ地点出土鉄製刀子（左）、勾玉（中央）、白玉（右）

跡からも銅鏡が出土しており、鏡の利用や保有について一定の意義を有する地域であったことが窺われます（天野 2006・渡辺 2010）。

おわりに

神奈川県内での水辺における鏡の出土事例を概観してきました。おわりに 3 遺跡の事例を比較・検討してみます。

まず、勝坂有鹿谷祭祀遺跡では、石で囲まれた範囲から複数枚の銅鏡や多数の石製祭具が出土している状況から、祭祀を行っていたことは明らかです。次に、高田南原遺跡では、鏡のほかに滑石製の勾玉や白玉、鉄製刀子といった祭具として捉えられるような遺物が出土しており、祭祀を行っていた可能性は十分に考えられます。

一方、戸田小柳遺跡では鏡以外に祭具として認識できるような遺物は出土しておらず、明らかに祭祀と捉えられる事例とは対照的です。しかしながら、遺跡から出土した鏡の鏡面に人為的に付けられた傷が存在すること、このような鏡が流路から出土していることを鑑みると、意図的に鏡を傷付け、流路に遺棄したという一連の行為を祭祀と捉えることもできるのではないのでしょうか。勝坂有鹿谷祭祀遺跡や高田南原遺跡のように鏡とその他の祭具を組み合わせる行う祭祀はもとより、鏡を単独で用いた祭祀が行われていた可能性が考えられるのではないのでしょうか。

なお、戸田小柳遺跡から出土した双頭龍文鏡ですが、鏡面に傷が付けられた鏡というのは全国的にも類例がないものです。鏡の扱われ方に関して、非常に重要な情報を与えてくれる痕跡を残しています。今後、出土例が増加することを期待しています。

図表出典

図 1～4：戸羽康一・長澤保崇・岸本泰緒子 2016、図 5：戸羽康一・岸本泰緒子 2018、

図 6～9：相模原市総務局総務課市史編さん室編 2010、図 10～13：天野賢一・永井 淳 2006

参考文献

天野賢一・永井 淳 2006 『高田南原遺跡（第Ⅱ地点）』 かながわ考古学財団調査報告 199 公益財団法人かながわ考古学財団

相模原市総務局総務課市史編さん室編 2010 『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』 相模原市史調査報告書 6 相模原市総務局総務課市史編さん室

戸羽康一・岸本泰緒子 2018 「破鏡に残された分割の加工痕跡」『かながわの考古学』 研究紀要 23 公益財団法人かながわ考古学財団

戸羽康一・長澤保崇・岸本泰緒子 2016 『戸田小柳遺跡』 かながわ考古学財団調査報告 315 公益財団法人かながわ考古学財団

渡辺千尋 2010 『高田遺跡群・下堀方形居館』 小田原の遺跡探訪シリーズ 5 小田原市教育委員会